

平成30年度 学校経営方針

人が育つ学校づくりをめざして

－学びがい、働きがいのある学校－

杉並区立高井戸第二小学校

校長 前田佐和子

I 学校経営の基本理念

高井戸第二小学校に着任し、2回目の春を迎えました。

目指す学校経営の基本理念は、「学校は、人が育つところ」であると、2年目を迎えるより強く実感をもって考えています。

高井戸第二小学校を子どもたち一人一人が、よりよく成長を遂げる場にしていきたいと考えます。

《学びがいのある学校》

学校は子どもたちの健全育成のために存在しています。子ども自身がかけがえのない存在であることを自覚し、自尊感情や他者への思いやりをはぐくみながら、明日への夢が実を結ぶよう日々、磨き合う「学びがいのある学校」となるよう努力します。

一人一人が自己の成長を感じつつ、学校で学ぶことに喜びを見出しながら毎日楽しく登校し、今日も頑張ることができた自分に誇りを感じながら家路につく。そんな毎日を地道に積み重ねていく教育活動を実践します。それが子どもにとって「学びがいのある学校」です。

「昨日より今日、今日より明日輝く子ども」をめざす児童像とし、子どもたちが自ら具体的なめあてをもって、日々の学校生活を送れるよう、取り組んでまいります。

○ 児童像に迫るために、以下のことを大切にしていきたいと考えます。

- ・ 自分の成長が実感できる日々の学習活動

「できなかったことができた」「昨日より少しあわかつてき」

- ・ 最後までやりとげる

「むずかしかったけどやっとできた。うれしい」「次は何に挑戦しようか」

- ・ 今日学んだことがしっかり身についている

「集中してがんばった」「家で復習してみよう」

- ・ 明日が待ち遠しい

「明日は〇〇に挑戦しよう」「早く〇〇がやりたい」

- ・ 基本的生活習慣が身についている

「朝ご飯をしっかり食べた」「ゲームやテレビより友達と外で遊ぶことが好き」

「明日の準備は完璧だ」

《働きがいのある学校》

「人が育つ」とは、子どもにだけ当てはまるではありません。子どもにとって「学びがいのある学校」にするためには、教職員一人一人が教育のプロとしての責任と自覚をもち、自らも教師として、職員としてよりよく職務を果たそうとする姿勢が大変重要であると考えます。教職員一人一人が、それぞれの立場、職責において「昨日よりも今日、よりよく仕事（授業）ができた」と職業人としての自己の成長を感じつつ、充実感を味わい、高井戸第二小の一員であることを誇れるような「働きがいのある学校」を目指します。日常業務の様々な分野で、常にOJTを意識し、高井戸第二小の子どもたちのために、様々な教育課題に全校で取り組んでいく過程で、自分自身を磨いていくことができると考えています。

校務分掌では、「よりよく」の精神でリーダーシップを發揮し、組織の一員として学校経営に参画し、子どもたちのために明るく前向きに仕事に取り組み、授業力（仕事力）を伸ばそうと日々努力していきます。

《応援しがいのある学校》

本校は、地域の宝である子どもたちの成長に責任をもっています。一人一人の人権尊重と社会貢献の精神をはぐくみ、基礎的・基本的な学力の向上を図って、その個性と想像力を伸ばし、広く国際社会でたくましく生きる力を身につけさせることは、学校の責務です。

高井戸第二小の教職員が一丸となって、互いのよさを生かしながら全力で取り組むこと、さらに保護者や地域の皆様の力を借りし、多くの大人の力を組織的に結集して、子どもたち一人一人を温かく見守り育てていく学校づくりを推進していきます。

子ども一人一人の成長を喜び合える学校・保護者・地域の関係を広げていきたいと考えています。

II 目指す児童像

教育目標

本校では、「生きる力」の育成を目指し、教育目標を設定しています。

- ① たくましい子
- かしこい子
- にこやかな子

杉並区の特定課題調査の結果を見ると、本校児童の学力は国語・算数とともにR3・4層に入る児童が多く、全体としては区平均を少し上回る結果となっています。しかし、一方でどの学年にも学び残しの児童がおり、学年を上がるごとにその割合が増加しています。学力が、将来の児童の幸せの下支えとなることを考えますと学力の底上げは本校の大きな課題

です。学び残しがある児童に対して、学力の基礎・基本の定着を徹底させる必要があります。算数科では2~6年生で、より少人数での指導ができる体制ができました。児童の学習状況をしっかりと把握するために、指導体制は固定します。

また、体力調査の結果は、全国・都それぞれの平均に届いていません。変化の激しい予測不能な未来を生き抜くために、しなやかな体力は必須です。30年度は重点目標を「たくましい子」とし、校内研究教科を体育として、児童の体力の向上を全校体制で目指します。

III 学校経営の基本方針

1 人権尊重の精神と豊かな心の育成

生命の大切さを知っていること、自分を大切にすること、自分と同じように他者を大切にすること、一人一人がかけがえのない存在として尊重されること、これらのこと一人一人にしっかりと根付かせたいと考えています。いじめや体罰、差別や偏見のない人権尊重の精神に満ち、豊かな心が育っていく学校・学級づくりをしていきます。

そのために、以下の点に取り組んでいきます。

(1) いじめ・不登校の根絶と生活指導の充実

子どもの立場に立って愛情深く、成長のために必要な指導をしていきます。「先生が認めてくれた、大切にしてくれた」と子どもが実感できる学級経営、学校経営が問題解決の基本であると考えます。自己肯定感の高い子どもを育てることを目標とします。問題行動の指導や不登校傾向の解決には、担任だけでなく組織的に取り組む体制づくりに力を注いでいます。誰が担任をしても、学校全体で知恵を出し合い、組織的に解決、改善していくしくみをさらに強化していきます。

① 月曜夕会と特別支援全体会

配慮が必要なケースについては、毎週月曜夕会の冒頭に情報交換を行います。5月・2月の特別支援全体会で全教職員が情報を共有し、共通理解し同步調で指導に当たります。

② 定例校内委員会・臨時校内委員会等教育相談の充実と関係機関との連携

定例校内委員会（校長、副校長、特別支援コーディネーター、3主幹、生活指導主任、養護教諭、特別支援教室専門員）を月一回確実に実施します。また、緊急性のある課題を抱えた子どもの学級担任も加わっての臨時校内委員会も開き、具体的な対策を講じていきます。ケースによっては、SSWや子ども家庭支援センターや児童相談所、心理相談員、近隣中学校などとの連携をとりつつ、多方面からの働きかけにより問題解決を図ります。

(2) 明るい挨拶の行き交う学校に

笑顔いっぱいの挨拶は、温かい人間関係をはぐくむ基本と考え、引き続き、高井戸第二小学校を明るい挨拶のあふれる学校にする取組を行っていきます。子どもたちが挨拶するようになるには、まず、大人が率先して笑顔の挨拶をしていきます。門が二つ、昇降口も四つ

ある広い学校ですが、看護当番等のしくみを活用して、改めて子どもたちを笑顔で迎えることから始めたいと考えています。

（3）豊かな心を育成するための道徳教育の充実

道徳教育は全教育課程で実施していくのですが、その中で、週1回の道徳の時間は学級指導とは異なり、意図的計画的に道徳的心情をはぐくんでいく時間です。研修の成果を生かし、学級指導と道徳授業を混同することなく、子どもの心を意図的計画的にたがやしていきます。

一人一人の自尊感情を高める指導を大切にしていきたいと考えています。日々の授業、学級経営、行事の実施の中で、子どもたち一人一人の自己有用感や自己肯定感を高めることを大切にした指導の充実を図っていきます。また、道徳授業地区公開講座では、講演会の実施を考えています。

（4）生命の大切さを実感できる環境の整備

高井戸第二小学校には、広い校地の中に十分な広さの充実した教材園があり、教材等の栽培計画がしっかりと計画されています。ビオトープもきれいになりました。子どもたちが身近に生命にふれる環境を整え、命の大切さを実感できるよう、植物を育てる体験的な活動や動植物に触れる機会を大切にしていきます。環境委員会の活動も工夫しています。学校支援本部の環境サポートーの皆様も応援してくださっています。

2 確かな学力と体力の定着

（1）基本的生活習慣・学習規律の徹底 ～「たかにハンドブック」を活用して～

子どもたちが楽しく学び、確かな学力を身につける前提として、学習用具の準備を整える、チャイムで着席する、話をしっかりと聞く、発言のルールを守るなどの学習規律がしっかりと定着していることが大切です。学習規律に関し、学級や学年でばらつきがあることは、子どもも混乱します。また、今後、若手教員の割合が増えていく現状にあっては、当たり前のことを当たり前に、全校が同一歩調で取り組むことは、学級の荒れを未然防止するために大変有効であると考えています。

「たかにハンドブック」をもとに、若手教員もベテラン教員もその他の職員も、みな同じ姿勢で子どもの指導に当たっていく仕組みを確立していきます。30年度は4月中の発行を目指しています。

（2）読書活動の推進

しっかりした学校図書館経営計画・図書館全体計画があり、学校司書が毎日図書室にいてくださる。広く明るい図書室に、新しい本がきれいにディスプレイされている。保護者ボランティアによる読み聞かせや学級文庫の選本など充実した読書活動が実施できていることは本校のよき伝統です。読書は子どもの心を耕し、確かな学力の基盤となりま

す。昨年以上に、全校体制で読書活動の推進に取り組んでいきます。読書旬間の取組もさらに工夫し、子どもたちの読書に対する意欲を引き出す取組を具体的に進めていきたいと考えています。

(3) 学習習慣の確立（家庭学習の習慣の徹底）

「生きる力」をはぐくむことを重視する理念は新しい学習指導要領にも生きています。日々の授業で学んだ、つまずきやすい内容を繰り返し反復して学ぶことは、確かな学力をはぐくむために重要ですし、小学校低・中学年までに学習習慣を確立することも求められています。家庭と協力を得て、着実に身に着けさせていきます。

(4) 体力向上への取組

子どもの体力が必ずしも高くない実態を受け、昨年度から体力向上に向けた取組の推進をしています。体育科授業の改善や全校で取り組む長なわ、短なわ、マラソン等の取組もさらに工夫していきます。

その他に、生活指導や学校保健委員会の活動とも関連させ、ゲームやテレビの時間を見直し、子どもたちにとって体を動かす外遊びがより魅力的になるような働きかけを工夫していきます。外遊び文化を豊かにし、学年を超えて、異年齢で体を動かす多様な遊びに熱中するような子どもを育てれば、体力の向上にもつながると考えています。

校庭遊びをもっと魅力あるものにして、子どもの生活に根ざした運動習慣の形成と定着をめざす。そのために体力テストの結果を生かした体育授業の改善、異年齢を含む豊かな人間関係の中での遊びの多様化と充実を図る。

保護者や地域の皆様の協力も得て、子どもの外遊び文化を豊かにできればと考えています。

(5) 小中一貫教育の推進

子どもは保護者・地域の宝です。自分のまちに誇りをもち、未来を担うしっかりした「生きる力」をもった人間を9年間の義務教育で育てること、それが地域に根差す公立学校である高井戸第二小学校の使命です。西宮中学校を核にして本校と松庵小学校で、目指す人間像を共有し、小中一貫教育を進めていくことを推進していきます。Q-Uにはそれぞれの学校で引き継ぎ取り組みます。

「学びをつなげ、切れ目のない教育を進める」ことを目標に三校の相互理解を深め、協力協働して地域の宝である子どもたちの育成をするため、昨年度までの課題を十分受け止め、進めていきたいと考えています。

3 教師の授業力の向上

「教師は授業で勝負する。」互いの授業力を磨きあう場を校内で充実させていきたいと考えています。教師の授業力向上は個々の教員の自覚のみに頼っては限界があります。本校

の課題である若手教員の育成を契機とし、学校全体の授業力向上と、互いに学びあい高めあう職場の活性化を目指したいと考えています。昨年は、ミニ研修が校内研究教科の体育から始まり、いろいろな教科に広まっていきました。今年もさらに続けていきます。

また、日々の授業を充実させるために教材研究や準備を十分に行い、意図的計画的な教育課程の実施をしていきます。そのために週の指導計画（週案）等の作成が大変重要です。

（1）週の指導計画の記入と提出

必ず前の週の金曜日には作成する。

- ・ねらい、主な授業のながれ、中心活動、留意点、指導記録など適宜記入。
- ・安全面の配慮は必須記入項目。
- ・指導に役立つ週案を作成し、活用。

（2）授業改善推進プランの活用

国や都・区の学力テストの結果分析を生かし、授業改善推進プランは各自が定期的に見直します。7月31日には学力向上校内委員会を実施する予定です。夏季休業中に授業改善プランを作成し、具体的な授業改善につなげます。

（3）同僚教員から学ぶ

互いの授業を見合って学ぶことは、大変有効な方法です。略案を準備した時には、必ず全員に配布し、よさを学びあう機会とします。研究授業以外に年3本以上、他の教員の授業を参観します。夏季休業中には、英語活動の指導略案の検討会を実施する予定です。

4 開かれた学校づくり（健康・安全・安心）の推進

（1）保護者や地域対象に、年度当初に学校経営方針を説明し、周知するとともに年度末には教育活動の報告を行って、1年間の教育活動の成果と課題を説明し、学校に対する理解と協力を得ていきたいと考えています。学校評価の結果に基づいた改善の具体的な方針を明確に示し、保護者・地域関係者・市民の学校に対する理解を深め、さらなる充実にむけて協力が得られるようにします。

（2）コミュニティスクールとして、今後も保護者や学校支援本部、町会など地域の皆様の力を借り、地域運営学校の利点を生かした学校経営を強力に推進していきます。